

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 岡本硝子株式会社

コード番号 7746 URL <http://www.ogc-jp.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡本 毅

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役コーポレートサービス部長 (氏名) 阿部 裕

TEL 04-7137-3111

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・新聞記者向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	2,762	△0.8	△305	—	△267	—	△184	—
25年3月期第2四半期	2,785	△4.5	4	△97.4	△32	—	△35	—

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 △164百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △53百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△11.58	—
25年3月期第2四半期	△2.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	6,622	917	12.8
25年3月期	6,982	1,084	14.5

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 845百万円 25年3月期 1,011百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,558	6.9	△306	—	△240	—	△156	—	△9.78

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	15,950,540 株	25年3月期	15,950,540 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	549 株	25年3月期	483 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	15,950,038 株	25年3月期2Q	15,950,124 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。ただし、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報等)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では、消費が概ね堅調であり、景気が緩やかに回復を続け、ヨーロッパ地域では、各国の緊縮財政による影響はあるものの、景気は下げ止まりを見せ、中国では、消費が堅調に増加し、景気の拡大テンポも安定化しつつあります。日本経済は、個人消費が持ち直しをみせ、企業収益も大企業を中心に改善するなど、回復基調が継続しております。

データプロジェクターは、ヨーロッパ地域での販売が不調であったことなどにより、需要の拡大傾向の鈍化が見られました。しかしながら、平成24年11月から続いていた、セットメーカーの在庫調整が収束したことで、当社グループのプロジェクター用反射鏡及びフライアイレンズへの需要は回復が進みました。特に、フライアイレンズについては、急激な受注増加で社内の生産体制が整いませんでした。その分、各加工工程において外注への依存量が増えてしまいました。また、成型の炉についても専用炉では間に合わず、一部製品について他の炉での生産で対応いたしました。その結果、成型歩留りは、想定を下回り原価アップの要因となりました。このため、フライアイレンズは、当第2四半期連結累計期間において、大きな売上損失となりました。フライアイレンズの採算性の回復が、当社グループの経常利益の黒字化への喫緊の課題であり、外注費削減と歩留り向上などによる原価低減策と適正価格への交渉を進めております。

フリット(ガラス粉末)は、新規開拓を始めとして試作から量産へ向けて全社を挙げて取り組んでおります。

資産効率化のため、ガラス溶融炉の建設などに備えて所有していたプラチナ地金のうち、当面使用しない分を売却したことなどにより、固定資産売却益は84百万円となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高2,762百万円(前第2四半期連結累計期間比0.8%減)、経常損失267百万円(前第2四半期連結累計期間の経常損失は32百万円)、四半期純損失184百万円(前第2四半期連結累計期間の四半期純損失は35百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①照明事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は372百万円と前年同期と比べ30百万円(7.6%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は37百万円と前年と比べ5百万円(18.2%)の増益となりました。LED照明向け製品の販売が引き続き好調でした。自動車用ヘッドレンズ・フォグレンズは、ガラス製品への需要の漸減傾向が続いており、販売数量が前年同期比で28.4%減少し、売上高は15.9%減少いたしました。

②光学事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は1,863百万円と前年同期と比べ76百万円(3.9%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は52百万円と前年と比べ193百万円(78.7%)の減益となりました。

プロジェクター用反射鏡は、販売数量が前年同期比で9.2%減少し、売上高は17.0%減少いたしました。フライアイレンズは、販売数量が前年同期比で38.1%増加し、売上高は39.7%増加いたしました。外注加工費の増加と成型工程の歩留り低下などにより、採算は大きく悪化いたしました。デジタルシネマ用映写機の反射鏡の販売は、先進国でデジタルシネマ上映システムの導入がピークを過ぎているため、減少いたしました。

③機能性ガラス・薄膜事業

当第2四半期連結累計期間の売上高は55百万円と前年同期と比べ12百万円(29.6%)の増収となり、セ

グメント損失（営業損失）は65百万円と前年と比べ19百万円の増益となりました（前第2四半期連結累計期間のセグメント損失は84百万円）。プロジェクター用ガラス偏光子の販売は増加いたしました。

④その他

当第2四半期連結累計期間の売上高は471百万円と前年同期と比べ70百万円(17.7%)の増収となりましたが、セグメント損失（営業損失）は150百万円と前年と比べ120百万円(前第2四半期連結累計期間のセグメント損失は30百万円)の減益となりました。紫外線波長域の反射鏡の販売は増加いたしました。市場開拓中であるフリットなどは製造固定費の増加を売上増で吸収できず、加えて、研究開発費の増加により営業損失は増加いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末と比べて359百万円減少し、6,622百万円となりました。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ86百万円の減少となりました。この主な要因は現金及び預金が52百万円増加、受取手形及び売掛金が130百万円増加、商品及び製品が135百万円減少したこと並びに流動資産その他が107百万円減少したことなどによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ273百万円の減少となりました。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べ359百万円の減少となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ30百万円の増加となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が117百万円増加、短期借入金が58百万円増加、1年内返済予定の長期借入金が41百万円増加、未払金が57百万円減少したこと並びに流動負債その他が120百万円減少したことなどによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べ223百万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金が188百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は193百万円の減少となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ166百万円の減少となりました。この主な要因は、利益剰余金が184百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年8月9日に公表しました平成26年3月期の通期連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日別途公表いたしました「第2四半期連結累計期間業績予想と実績の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度及び当第2四半期連結累計期間に継続して営業損失を計上しており、当第2四半期連結累計期間において重要な営業損失(305百万円)を計上しております。また、当社グループの借入金の一部については財務制限条項が定められており、当連結会計年度の経常利益額、当連結会計年度末の純資産額又は当事業年度末の当社の純資産額によっては、財務制限条項に定める水準を下回る可能性があります。当該状況により、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しております。当該状況を解消するため、次の対応策を講じてまいります。これにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

①フライアイレンズの採算改善

当社グループへのフライアイレンズの発注増加は著しく、生産能力増強が間に合わない中で、専用炉以外でのガラス基板の生産と外注加工で対応したことで、フライアイレンズで大きな売上損失が生じたことが、営業損失の最大の原因であり、生産性の向上、外注管理の徹底、製品単価の適正化等により採算性を回復させていきます。

(I)生産性の向上

(i)良品率の向上

フライアイレンズの受注増加に対応するために、フライアイレンズの成型を専用炉であるC4炉に加えて、一部品種について、他の製品も生産しているC5炉に振り替えております。このC5炉で成型しているフライアイレンズの成型条件の確立等により歩留りを向上させ、製造原価の低減を図ります。

また、蒸着工程では蒸着条件のより一層の安定化により、歩留りの更なる向上を図ります。

(ii)内製化の推進

自動スクライブ機を増設すること等で、フライアイレンズの切断工程の内製化率を向上させることにより製造原価の低減を図るとともに、研磨工程についても面取り機を増設等により、内製化率を向上させ製造原価の低減を図ります。

(II)外注管理の徹底

外注管理の徹底により外注先での歩留り向上、外注単価の低減等を図ります。

また、生産計画の再構築を図り、外注数量の適正化を目指します。

(III)製品単価の適正化

上記の徹底した原価低減を図るとともに、得意先には、適正価格への改訂のお願いをいたしております。

②フリット事業の早期立ち上げ

新規事業であるフリット事業については、既に試作出荷をしている案件について、量産受注につなげていくことで、着実に売上高を増加させていき、事業の早期立ち上げを図ります。

③金融機関との緊密な取引関係の維持

上記の収益改善策を着実に実行することで、財務制限条項への抵触回避を図るとともに、金融機関との緊密な取引関係の維持に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	383,702	435,851
受取手形及び売掛金	794,497	924,727
商品及び製品	484,300	348,951
仕掛品	312,692	288,278
原材料及び貯蔵品	70,378	68,684
その他	223,394	116,096
貸倒引当金	△5,016	△4,966
流動資産合計	2,263,950	2,177,621
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,614,867	1,566,390
機械装置及び運搬具(純額)	1,378,615	1,419,158
土地	708,614	708,614
リース資産(純額)	274,031	232,402
その他(純額)	507,402	269,296
有形固定資産合計	4,483,531	4,195,862
無形固定資産	9,910	8,376
投資その他の資産		
投資有価証券	131,392	148,537
その他	93,874	92,293
投資その他の資産合計	225,266	240,830
固定資産合計	4,718,709	4,445,069
資産合計	6,982,659	6,622,690
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	337,801	455,147
短期借入金	232,000	290,033
1年内返済予定の長期借入金	480,441	522,325
リース債務	95,665	96,513
未払法人税等	20,007	11,249
賞与引当金	45,877	45,781
未払金	286,549	228,644
その他	241,525	120,994
流動負債合計	1,739,869	1,770,691
固定負債		
長期借入金	3,594,923	3,406,450
リース債務	298,097	249,606
退職給付引当金	216,863	224,896

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産除去債務	35,783	37,102
繰延税金負債	11,781	15,519
その他	500	500
固定負債合計	4,157,950	3,934,075
負債合計	5,897,819	5,704,766
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,762,390	1,762,390
資本剰余金	1,361	1,361
利益剰余金	△787,498	△972,202
自己株式	△380	△391
株主資本合計	975,873	791,158
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,938	37,357
為替換算調整勘定	8,245	17,133
その他の包括利益累計額合計	35,184	54,490
新株予約権	27,326	24,634
少数株主持分	46,455	47,641
純資産合計	1,084,840	917,923
負債純資産合計	6,982,659	6,622,690

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	2,785,895	2,762,299
売上原価	2,290,349	2,501,433
売上総利益	495,546	260,866
販売費及び一般管理費		
役員報酬	36,706	36,846
給料及び手当	121,275	122,771
退職給付費用	4,713	5,742
減価償却費	15,704	17,008
旅費及び交通費	20,235	23,746
支払手数料	40,549	38,346
運賃	39,556	36,265
賞与引当金繰入額	3,575	9,758
研究開発費	64,661	102,404
その他	144,398	173,744
販売費及び一般管理費合計	491,375	566,635
営業利益又は営業損失(△)	4,170	△305,769
営業外収益		
受取利息	713	193
受取配当金	3,150	3,194
助成金収入	30,882	48,089
受取事務手数料	8,182	1,293
為替差益	—	26,231
その他	8,949	5,006
営業外収益合計	51,877	84,008
営業外費用		
支払利息	39,602	38,018
為替差損	27,985	—
シンジケートローン手数料	17,094	3,781
その他	3,919	3,652
営業外費用合計	88,601	45,452
経常損失(△)	△32,553	△267,213
特別利益		
新株予約権戻入益	1,329	8,136
ゴルフ会員権償還益	8,550	—
固定資産売却益	—	84,759
特別利益合計	9,879	92,895
特別損失		
固定資産除却損	5,413	494
特別損失合計	5,413	494
税金等調整前四半期純損失(△)	△28,087	△174,811

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
法人税、住民税及び事業税	8,340	10,687
法人税等調整額	△318	419
法人税等合計	8,022	11,106
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△36,109	△185,918
少数株主損失 (△)	△996	△1,214
四半期純損失 (△)	△35,112	△184,703

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△36,109	△185,918
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10,752	10,418
為替換算調整勘定	△6,508	11,288
その他の包括利益合計	△17,261	21,706
四半期包括利益	△53,371	△164,212
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△50,311	△165,398
少数株主に係る四半期包括利益	△3,060	1,185

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△28,087	△174,811
減価償却費	279,911	284,660
貸倒引当金の増減額(△は減少)	263	△49
賞与引当金の増減額(△は減少)	△21,979	△95
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△1,284	8,032
受取利息及び受取配当金	△3,863	△3,388
支払利息	39,602	38,018
為替差損益(△は益)	482	2,091
固定資産売却損益(△は益)	—	△84,759
固定資産除却損	5,413	494
ゴルフ会員権償還益	△8,550	—
売上債権の増減額(△は増加)	△143,017	△128,373
たな卸資産の増減額(△は増加)	27,307	162,050
仕入債務の増減額(△は減少)	17,575	116,181
その他の資産の増減額(△は増加)	42,647	110,627
その他の負債の増減額(△は減少)	80	10,882
小計	206,502	341,561
利息及び配当金の受取額	3,863	3,388
利息の支払額	△39,805	△38,275
法人税等の支払額	△3,768	△19,516
営業活動によるキャッシュ・フロー	166,791	287,158
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△600	△600
別段預金の払戻による収入	—	25,000
投資有価証券の取得による支出	△3,121	△3,149
有形固定資産の取得による支出	△381,808	△285,625
有形固定資産の売却による収入	—	184,906
無形固定資産の取得による支出	△5,840	—
貸付けによる支出	△10,938	—
預託金の償還による収入	11,000	—
その他の支出	△2,736	△2,173
その他の収入	309	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	△393,735	△81,620

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	98,000	58,033
長期借入れによる収入	100,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△219,755	△246,589
自己株式の取得による支出	—	△11
セール・アンド・リースバックによる収入	215,158	—
リース債務の返済による支出	△37,973	△47,512
財務活動によるキャッシュ・フロー	155,428	△136,079
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,188	4,490
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△74,704	73,948
現金及び現金同等物の期首残高	556,931	295,702
現金及び現金同等物の四半期末残高	482,227	369,651

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	照明事業	光学事業	機能性ガラス・ 薄膜事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	403,177	1,939,930	42,629	2,385,737	400,157	2,785,895
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	403,177	1,939,930	42,629	2,385,737	400,157	2,785,895
セグメント利益又は損失(△)	31,835	245,814	△84,902	192,748	△30,704	162,044

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デンタルミラーなどの医療向けガラス製品、洗濯機用ドアガラス、紫外線照射装置に使われるエキシマランプの蒸着加工などを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	192,748
「その他」の区分の損失(△)	△30,704
全社費用(注)	△157,873
四半期連結損益計算書の営業利益	4,170

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	照明事業	光学事業	機能性ガラス・ 薄膜事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	372,522	1,863,452	55,234	2,291,209	471,090	2,762,299
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	372,522	1,863,452	55,234	2,291,209	471,090	2,762,299
セグメント利益又は損失(△)	37,632	52,417	△65,462	24,587	△150,795	△126,207

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デンタルミラーなどの医療向けガラス製品、洗濯機用ドアガラス、紫外線照射装置に使われるエキシマランプの蒸着加工などを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	24,587
「その他」の区分の損失(△)	△150,795
全社費用(注)	△179,561
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△305,769

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。